

平成 25 年 11 月 14 日

一般社団法人 日本物流団体連合会

## 新型インフルエンザ（H5N1 型）の臨床研究に参加

11月12日、物流連では、(独)国立病院機構が行うプレパンデミックワクチンの臨床研究に参加する形で、川合会長、大庭理事長をはじめ7名が、(独)国立病院機構東京医療センターにて、第一回目のワクチン接種を受けました。これは、本年4月に、新型インフルエンザ対策等特別措置法が施行され、新型インフルエンザの流行時に、指定公共機関である物流事業者が輸送の責務を負うことになったことなどに伴う対応の一環です。

政府は、新型インフルエンザの流行時に、特定接種を行うこととしており、特に、強毒性のH5N1型新型インフルエンザに対処するために、プレパンデミックワクチンの備蓄を行っています。今回の臨床研究は、すでに製造販売承認の得られているこのワクチンについて、その有効性・安全性の研究に資するため接種例を増やして、より安全で効果的な接種に役立てようと計画され、募集が行われたものです。

物流連から、この募集について会員に周知したところ、10名余の参加希望者があり、12日にはそのうち7名が参加しました。

この日は、他の参加者も含め合計20名ほどの参加者が会議室に集まり、看護師から臨床研究について事前説明を聞き、ワクチン接種前調査用紙に体調などを記載し、医師の確認を経て接種が行われました。今後一週間にわたり健康観察日誌を記載することなどの説明を受け、無事終了しました。

ワクチン接種は、3週間の間隔をあけて2回の接種が必要とされており、今回の参加者は12月初旬に二回目の接種を受けるなど、今後、順次、希望者への接種が進められることとなります。

物流連は、物流事業は社会の重要なインフラであり、強毒性の新型インフルエンザの流行時においても機能維持が求められるため、そのような物流事業者の安全性が確保されるよう、政府関係者に対し、事前の対応を求めてきています。また、希望者が臨床研究に参加することは、ワクチンの事前接種を受けるのと同様な効果を得られる意義もあると考えています。

以上

(連絡先) TEL:03-3593-0139 担当:赤坂